

# ヒートポンプ・蓄熱システムの有効性 (節電・負荷平準化)

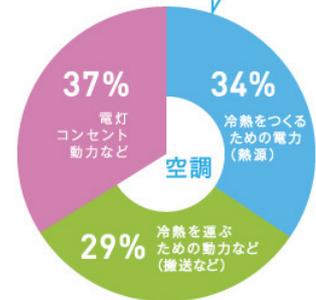
ヒートポンプは省エネ技術であるが、電力を消費する。**喫緊の課題である節電にはどのように取り組むべきか？そこで有効なのがヒートポンプ・蓄熱システムである。**

電力需給のピークは、夏期の気温が上昇する13時～16時を中心に日中時間帯に発生する。皆が空調（冷房）を一斉に使用するためである。

ヒートポンプ・蓄熱システムは、夜間にヒートポンプで冷熱を製造して蓄熱槽にその冷熱を蓄え、日中にそれを用いて冷房をまかなうもの(注)である。

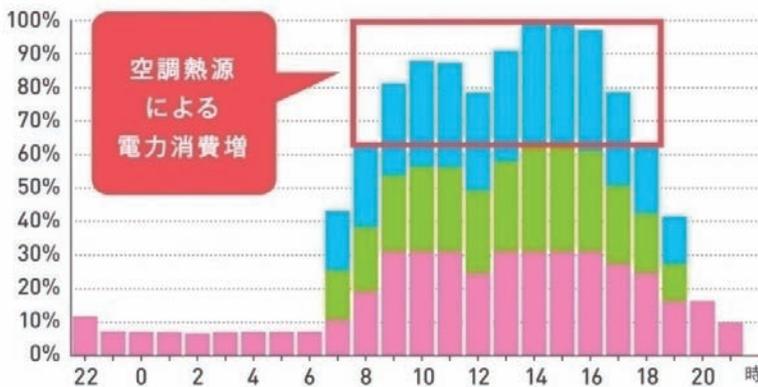
(注) 冬期は、夜間に温熱を製造して蓄熱槽に蓄え、日中はそれを用いて暖房をまかなうことが可能。

事務所建物1日の電力消費の  
半分以上が空調に  
使われています。



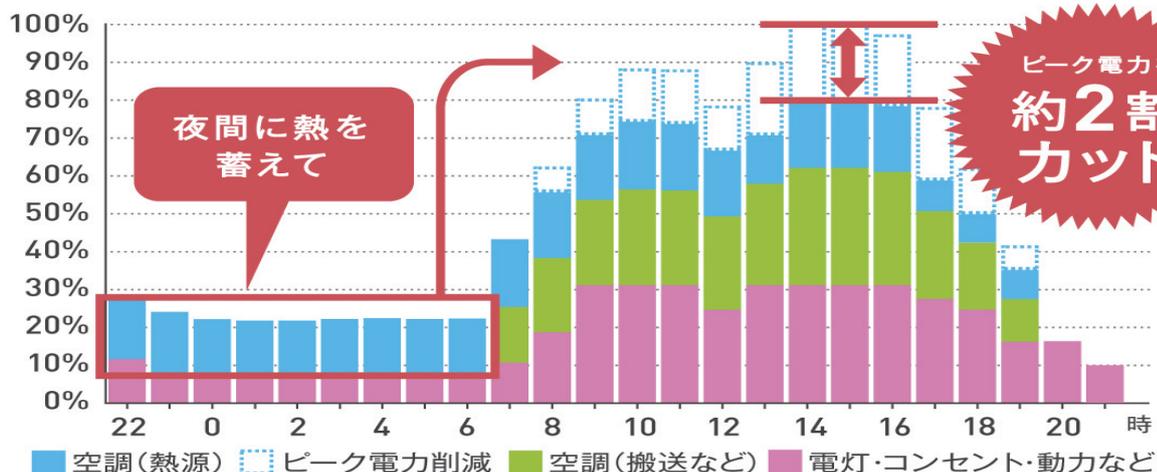
関東地区にある  
某事務所建物における  
電力使用割合例

ヒートポンプ・蓄熱システム導入前



空調（冷房）にヒートポンプ・蓄熱システムを用いることで、**省エネルギーとピーク時間帯の節電を高いレベルで両立させ、且つ快適な室内環境を維持することが可能**となる。

導入後（昼間、冷房に必要な冷熱の半分を蓄熱でまかなった場合）



■ 空調(熱源) □ ピーク電力削減 ■ 空調(搬送など) ■ 電灯・コンセント・動力など  
※事務所建物のモデルケース